

テーマ

子どもと共に育つ地域 夢よはばたけ！

目標

子どもたちを中心とし、保護者、地域住民、教員が集まり、子どもの成長を見守り、支援する取組を行う。

地域のお祭りや各校園で開催されるイベントに参加し、中学校区内（幼・小・中）の教員やPTAとの交流を深める。

今年度の取組紹介

今年度は富雄北小学校・鳥見小学校それぞれに小学生学習支援事業を計画しました。富雄北小学校は日程が調整できず実行できませんでした。鳥見小学校では『夏の寺子屋』として園児、小学生、中学生達に地域、幼稚園、学校が一緒になって体験学習を実施しました。地域の方と中学生ボランティア部が小学生の縦割り班に分かれて入り、竹の水鉄砲作りのサポートをしました。低学年の児童には難しいところもありましたが中学生が一人一人に一生懸命指導しており、また地域の方々はその様子を見守ってくださいました。水鉄砲が出来上がった後は、年令に関係なく大騒ぎで水をかけあい、楽しいひと時を過ごしました。



秋には地域の方より地域教育協議会に声をかけていただき、地元の神社のお神輿巡幸に両小学校の児童が参加しました。協議会から小学校に参加児童を募集し、中学生ボランティア部とコーディネーターが引率しました。校区内であっても初めて神社に来たという児童や保護者もあり、富雄の歴史にふれながら巡幸することができました。神社の神主さんや地域の方々もたくさんの子どもの参加を大変喜んでくださいました。

今年度のまとめ

昨年度に引き続き、校区内小学校と中学校の連携事業を行いました。昨年度は両小学校に中学校ボランティア部がボランティアクラブ員を募集し中学校を中心に活動しましたが、今年度はそれに加えて他方面からも協議会に子どもたちの参加依頼がありました。上記の『お神輿巡幸』もその一つであり、校区内の子どもたちが一緒に地域を盛り上げてほしいということでした。

地域教育協議会の活動が地域にも浸透してきており、地域と学校が一緒に子どもたちを見守り育てていこう、という思いが繋がってきています。

地域の方が子どもたちを褒めてくださり、子どもたちも地域の方と共に活動することでますます自己肯定感が高まり、地域を愛する心が育まれています。

来年度に向けて

今年度の活動を継続し、発展させて行こうと思いますが、年々突発的な活動も増えているため、学校とコーディネーターとの打合せや活動時間の調整が少し困難になっています。

幼稚園との連携や関わりについては、園児にわかるように日本文化の伝承や、保護者に対しての子育てアドバイスの時間を持つようにしていますが、今後も協力して幼、小、中、の連携に取り組みたいと思います。

テーマ

子どもと共に育つ地域 夢よ はばたけ！

目 標

- ボランティア精神を育み、地域貢献を積極的に実践する。
- 生きる力・学力(基礎学力)・規範意識の向上を目指す。
- 幼小中の連携・小中一貫教育を推進する。
- 防災意識の向上を目指す。
- 各種講演会・演奏会等に保護者・地域住民を招待する。

今年度の取組紹介（新しい取組）

放課後学習(SAS)特別企画として、コーディネーターの紹介で、大阪市立大学院客員教授 中川康一先生をゲストティーチャーにお迎えし、地震発生時に起こる「液状化現象」について、砂の敷き詰めた装置での実験講座を行いました。生徒に防災意識を向上させる取組として、生徒会執行部をはじめ、多くの生徒が参加し奈良にも液状化の危険があることを学びました。



また、図書ボランティアを募集し、先進校視察から始め、夏休みの図書室環境整備・書庫の整理、毎昼休みの開館支援、月に一度の放課後の開館、本の貸出、返却、修理、図書委員会活動への参加などをしていただきました。より良い図書室環境を求めて思案していた図書室が、あっという間に、閲覧しやすく、ちょっとした美術館のようにオシャレな居心地の良い空間へと生まれ変わり、毎昼休みの利用者も大幅に増加し、素晴らしい成果を挙げることができました。



今年度のまとめ

今年度もコーディネーターの献身的な支援により、目標にむけて計画的に取組が行われ、生徒、保護者、教職員のより一層の理解と協力が得られました。新しい取組として、上記の放課後学習(SAS)特別企画として、防災について学びの場をもち、小中一貫教育に向けて、富雄北と鳥見小学校の児童会へ、本校生徒会が防災の伝道師として「防災の備えの大切さ」を広めにいきました。また、昨年度からの職場体験の事業所との折衝をコーディネーターが担うこととなり、多忙な教職員にとって大きな負担軽減になりました。このことがキャリア教育支援と認められ文部科学大臣表彰受賞に繋がりました。さらに、キャリア教育の一つとして、文化発表会でボランティア部が、全校生徒に「富より団子」の開発の経過と、今後の販路拡大についてプレゼンテーションでアンケートの協力をお願いしました。また、職場体験の事業所でも「富より団子」を試食していただき、アンケートに協力していただきました。その結果、第一位の「奈良市の学校給食に出してほしい」という意見を奈良市長さんや教育長さんの前で熱くプレゼンテーションを行いました。実現には課題もありますが、大きく一歩前進しました。この他にも、小中一貫教育の取組として前述に加え、エコ石鹸作りや、しめ縄作りなどにも取り組みました。

来年度に向けて

今年度の活動を基本に、小中一貫教育の実施により、学校、家庭、地域、コーディネーター、ボランティアが協働し、「命や人を大切にし、活力にあふれ、富雄を誇れる子ども」を育成していきたいと考えています。

テーマ

子どもと共に育つ地域 夢よ はばたけ！

目標

- ①ボランティア委員会を活用し、様々な地域行事に参加しようとする児童を増やす。
- ②地域ボランティアと児童の交流の場を増やし、更なる地域の人材を発掘する。

今年度の取組紹介（今年度始まった取組）

・1年生は5月にお話しの会を行いました。初めて地域の方6名の語り部さんから話を聞きました。みんな静かに集中してお話を聞くことができました。また、幼稚園でも行われることになり、幼・小の連携を通して、一層の効果が出るような取組にしていきたいと思っています。



・4年生は夏休みの夜に星空観察教室を行いました。総勢100名をこえる親子が参加しました。当日はあいにくの曇り空でしたが、資料や映像を見ながら「今日の星空の様子」や「星を探すコツ」などについて講師の先生や助手の学生の方から説明がありました。星座を投影して「ギリシャ神話」のお話もあり、親子ともども楽しく学習しました。



今年度のまとめ

今年度も、先生方とコーディネーターや地域のボランティアとが、早い時期から話し合いを行い、昨年度よりさらに充実した活動ができました。また、各学年共、取組のまとめを作成し、来年度に向けて、2月にコーディネーターとの反省会を持ちました。ここで出された感想や意見が、来年度の活動に反映され、さらに学校のニーズに合った取組になっていくと思います。

ボランティアとして参加された保護者の方からは、「できれば、ほめていただいたり、できる子ができない子に教えたりして、自信を持てた子がたくさんいました。」「地域の方とハイタッチして帰る子もいて、一緒に何かをすることによって、地域の方と子どもたちの距離がすごく縮まっているような気がしました。」「子どもに積極性ができました。」などの感想をいただきました。

また、ボランティア委員会では、コーディネーターや地域の方の付き添いのもと、「校区のゴミ拾い活動」を展開しました。そして、子どもたちが招待した音楽会には、地域ボランティアの方々が多数参観され、「学校」「地域」「保護者」の関係がより深まったと思います。

来年度に向けて

地域や保護者への発信を増やし、新たなボランティアの発掘を行っていきます。地域と教職員との距離をさらに縮め、学校と地域、保護者と「協働」で子どもを育てる学校を目指します。また、小中一貫教育の一つとして、ボランティア委員会と中学校のボランティアクラブとのさらなる交流も行っていく予定です。

テーマ

子どもと共に育つ地域 夢よ はばたけ

ー ボランティアで鳥見から世界へ ー

目標

- 地域の方と共に取り組むことを通して、ボランティアのすばらしさ、地域の良さを知るとともに、地域に対する誇りと自信、地域を守る心を育む。
- 多様な立場の人との関わりを通して、より良い人間関係を創造し、世界に目を向けることができる児童を育成する。

今年度の取組紹介

今年度は、学校支援ボランティアへの登録者数も70名になり大勢の地域の方に活動を支援していただきました。その注目すべき取組の一つ目は、

「地域ボランティアと委員会活動とのコラボレーション！」

これまでも地域ボランティアの関わりで、芝生を植えたり、花を植えたりして、環境整備をしてきました。今年度は『ボランティア』が中学校区共通のテーマとなり、休日の取組や生活科や総合的な学習の時間中心の活動だけではなく、委員会活動や児童会活動と関連させた幅広い活動を計画しました。

図書委員会と図書ボランティア、環境美化委員会と地域ボランティア等、委員会の活動にボランティアが参加していただき合同で作業を行いました。また、委員会に参加している児童は高学年なので、委員会対象外の学年の児童にも呼びかけ、全学年で取り組みました。

二つ目は、「地域ボランティアによる家庭科実習の補助」

地域ボランティアの中で、裁縫や料理が得意な方に来ていただき、子ども達の作業を補助していただいたので、子ども達も安心してスムーズに作業を行うことができました。その他にも従来から行っている環境整備活動も引き続き行いました。



今年度のまとめ

これまでの生活科や総合的な学習の時間中心の関わりにプラスし、委員会活動や家庭科の授業などの時間に地域ボランティアと共に活動する機会が増えたことにより、子ども達もボランティアの大切さ、すごさを実感することができました。また、各学年でゲストティーチャーを招くにあたり、地域コーディネーターと打ち合わせをし、コーディネーターを介してゲストティーチャーを招いたことにより、コーディネーターとの関わりも深めることができました。

来年度に向けて

来年度は、創立50周年記念事業を通して地域ボランティアと共に活動する機会を更に増やし、児童のボランティアに対する見識を深めると共に、地域・保護者・学校の繋がりも深めていきたいと思えます。また、中学校区で連携した取組にも積極的に参加し、小中一貫教育にも繋げていきたいと考えています。

テーマ

子どもと共に育つ地域 夢をはばたけ！

目標

**地域と共に育とう 大好き富雄
夢いっぱい 元気いっぱい今私たちにできることに挑戦しよう**

今年度の取組紹介（地域の方の教育力をかりて、様々な感動体験を深める事業に取り組みました。）

・幼稚園で育てたジャガイモや玉ねぎを使って、カレー作りをするため、その他の必要な食材を買いに行きました。地域の方の力を受け、近隣のスーパーマーケットでの買い物は始めてで、数人で買い物カゴを持ち、店内を歩くだけでも笑顔があふれていました。店の方に「お肉はどこにありますか。」「カレールーはどれがお勧めですか。」と自ら聞きにいく姿もあり、「また行きたいなあ。」「今度は、私がお金を払う役をしたい。」と、自ら思いを伝えようとし、進んで活動する意欲が見られました。また、後日再びさつま汁の食材を購入する機会も設け、さらに園児にとっての感動体験ができました。



・菜の花プロジェクトは、毎年地域の方の力をかりて進めています。園児は幼稚園や地域の畑で育てた菜の花を刈り取り、種を収穫、油絞りの活動を繰り返し、大量の種で少しの油しかとれないことやその油でも車が動くことを知ることができました。また、精油した菜種油と収穫した小麦を使って、誕生会でのおやつとしてホットケーキを食べることができました。

・正倉院展やお水取りの話を地域の方から保護者と一緒に聞く機会を持ちました。スクリーンに映し出される映像を見て「ベットで寝てたんや。」「あの靴かわいいなあ。」と、興味を持って聞き入る姿が見られ、奈良にある大切なものが現在もあることに関心を示していました。

今年度のまとめ

・様々な心揺さぶる体験を通して、園児たちは自ら進んで活動し、思いを伝え合えることができるようになってきました。

・園児たちは本園のE S Dの中での、「食育」や「環境」「世界遺産学習」等を実際ののを見たり、体験したりして感動することができました。中でも、地域の方と一緒に買い物に出かけたり、菜の花プロジェクトの活動をしたりしたことで、見守られながら地域での体験ができました。そのことで地域を知り、人と関わる力が付いたと思われます。茶道教室や剣道教室では、日本の伝統文化を知るとともに、作法や自分の体をコントロールする力、また物事に自ら進んで関われるようになってきました。

来年度に向けて

・毎年継続して事業を実施していることで、園児が自ら関わりだすプロジェクトになってきています。また地域力を活かして園の研究主題に向けて実践できたことで、園の取り組みを地域の方に知ってもらえることにもつながるので、今後とも園のさまざまな活動に地域の方にも参加を呼びかけ、継続している活動のよさを知らせていきたいと思います。

テーマ

子どもと共に育つ地域 夢よ はばたけ

—様々な人との触れあいを通して、地域を好きになろう—

目標

○小学校への滑らかな接続を目指す。

○夢が広がる遊びの環境づくりと様々な人々との触れ合い。

今年度の取組紹介

○ 地域の人と、花壇の花植えや遊具作りをしよう。

幼児と地域のボランティアさん、地域コーディネーターさんとで、花植えや手作り平均台作りをした。「ここに植えるといいよ」など、地域の方々が一つ一つ優しく教えてくださる様子に、幼児たちは「私もしたい」「どんなものができるのかな」など喜んで参加し、一緒に作ることを楽しみました。出来上がった平均台の周りには自然と人が集まり、友達や小学生と一緒にじゃんけん遊びをするなど、誰とでも一緒に遊び始める姿が見られました。また、花壇の花に進んで水をあげるなど世話をする様子も増えてきており、自分たちが植えた花には、より一層愛着があり、成長の様子を楽しみにする姿も見られるようになりました。



○ 地域の方々と一緒に、いもぼたもち作りをしよう。

幼児がお家の人とも手軽に作れるように、また、地域の方々と友達と一緒に作ることでいろいろな食べ方や食材に親しみ、食べる楽しさを感じてもらおうと、サトイモとお米を使った「いもぼたもち」作りを教えてくださいました。「先生、おかわり。おいしいね」と、普段小食や偏食の幼児も自分から進んで食べようとする姿を見ることができました。



今年度のまとめ

- “幼児が遊びたくなるような環境” “小学生との遊びが広がっていくような環境”を作りたいとし、今年度は、去年から続いている花壇の整備や手作り遊具作りをしました。出来上がった遊具の場所には自然と幼児や児童が集まり、遊びの輪を作り出しています。また、地域の方々の優しさに触れる体験がより自分を発揮できる良い機会となるよう、お菓子作りや英語教室、お茶教室なども行いました。幼児には、家庭でも地域の方々との様子を喜んで話したり、普段の生活の中で再現して遊ぶ姿があり、地域の方々との楽しい経験が幼児の生活をより豊かなものとし、主体的に活動したり大切にしようとする力へとつながってきています。

来年度に向けて

来年度も引き続き、“幼児が思わず遊びたくなるような環境” “誰とでもかかわり楽しめる環境”を目指し、地域の方々と共に取組みます。また、幼児の生活がより豊かなものとなるよう、また、自己を発揮しのびのびと行動できる活力源として、地域の方々の力を有効に活用できるようにしていきたいと思います。